

# 国語科学習指導案

指導者 吉岡 大泰

日時 令和4年11月19日(土) 第1校時 9:20~10:05  
年組 小学校 第2学年1組 計32名(男子16名, 女子16名)  
場所 小学校 2年1組教室  
単元 登場人物と自分を重ねて読もう(「お手紙」)

## 単元について

物語を読む面白さの一つは、叙述をもとに想像を広げながら自分の作品世界を創っていくことである。ドイツの文学研究者W.イーザーは、物語における読者の想像に委ねられた「間」や「空白」を〈空所〉という言葉で示しており、松本(2018)は、この〈空所〉を「読者が想像力を働かせて埋めつなぎ、一貫した意味を創り出す働きをする要因・箇所」と定義している。読者が作品内に描かれていないことを、叙述を基に想像して解釈することは物語世界との対話を行う上で非常に重要であるといえる。本教材「お手紙」は、アーノルド・ローベルによる「がまくんとかえるくん」シリーズの一冊「ふたりはともだち」の中に収められた物語の一つである。一度も手紙をもらったことがないがまくんとその悲しみに寄り添い手紙を書いたかえるくんが、共に幸せな気持ちでお手紙を待つ心温まる物語である。二人の会話を中心に物語が進んでいるため登場人物の心情に共感しやすく、会話文や行動から場面の様子が捉えやすくなっている。その一方で、物語の大きな〈空所〉である手紙を待つ四日間の様子が描かれておらず、二人がどんな様子でお手紙を待っていたのかは読者の想像に委ねられている。このことから、場面の様子や登場人物の言動に着目して読むことで、想像を広げながら物語の世界に深く入りこむことができる教材である。

これまで本学級の児童は、教材文「スイミー」で物語の場面を「時・場・人物」に着目して読み、物語が最も大きく変わる場面を捉えて読んできている。その際、物語世界を自分ごととして捉えるために、「もし自分だったら～」という観点で物語の読みを深めてきた。昨年度は「くじらぐも」の学習で、物語世界に自分を位置づけながら読むことでくじらぐもの世界観に読み浸りながら学習することができた。事前アンケートでは、想像を広げながら読むことを好む児童が多い中、登場人物の気持ちを想像することが好きではないと回答した児童が6名(19%)おり、その理由から人物の心情という明確な答えのない問いへの不安や想像することへの難しさが挙げられた。

指導にあたっては、中心人物であるがまくんとかえるくんそれぞれの変容を捉え、作品全体に流れる「友情・親友」について自分の読みの広がりや深まりを自覚できるようにしたい。そのための指導の重点は三つある。一つ目は、本単元に入る前に構成的グループエンカウンターを用いた手紙のやりとりを行い、手紙を書く経験や手紙を待つ経験をクラス全員で共有することである。これにより、「お手紙」の内容を自分ごととして捉え、物語を読む構えをつくっていききたい。二つ目は、これまで学んできた物語の客観的な読み方を土台として、クラスで話し合いたい「問い」を児童自らが作り上げることである。登場人物への同化と異化を繰り返しながら児童の「問い」を話題にした対話活動を繰り返し行うことで、叙述をもとに人物の行動を具体的に想像できるようにしたい。三つ目は、物語の〈空所〉である手紙を待つ四日間の二人の会話を創作することである。友達と二人で手紙を待つ幸せな会話や手紙が来ない事への不満など児童の多様な読みがある中で、なぜ二人は手紙が届いていないのに幸せな気持ちになったのかという新たな「問い」について考え、二人の間にある友情という見えない絆を感じられるようにしたい。これらの手立てにより、児童一人一人が自分の作品世界を大切にしながら、教材文や自分、友達との対話を通して物語に深く入り込み、一人では見えてこなかった新たな物語世界を獲得できるようにしていきたい。

## 指導目標

- ・ 地の文や会話文の中にある主語と述語との関係に気付き、理解できるようにする。 「知識・技能」
- ・ 場面の様子や登場人物の言動から想像を広げ、「友情・親友」に対する見方・考え方を深めることができるようにする。 「思考力・判断力・表現力等」
- ・ 物語の中にある「問い」について話し合うことで、自分とは異なる他者の考えに共感したり、新たな見方を広げようとしたりすることができるようにする。 「主体的に学習に取り組む態度」

## 指導計画（全12時間）

次	時	学習内容
0		・ 『自分宛の手紙』 手紙を書く気持ちと手紙を待つ気持ちを感じる【学級活動】
1	1	・ 教師の範読を聞き、初発の感想をもつ
	2	・ 音読練習。物語の設定（時・場・人物）の確認、物語の最も大きな変容を考える
	3	・ 地の文をもとに、会話文を誰の言葉か考える。物語のあらすじをまとめる
	4	・ あらすじをもとに、物語の中から「問い」を見つけ、みんなで話し合いたい「問い」を決める
	5	・ みんなで決めた「問い」を話題にして物語を読む① 問い『どうしてかえるくんは、自分でお手紙をわたさないのか』
	6	・ みんなで決めた「問い」を話題にして物語を読む② 問い『どうしてがまくんは、お手紙をまつことにあきあきしたのか』
	7	・ みんなで決めた「問い」を話題にして物語を読む③ 問い『どうしてかえるくんは、お手紙の内容をがまくんに教えたのか』
	8	・ みんなで決めた「問い」を話題にして物語を読む④ 問い『どうしてがまくんはお手紙を読んで「ああ。」と言ったのか』
2	9	・ 手紙を待つ四日間の会話を創作し、登場人物の様子を想像する
	10	・ 創作した会話文をもとに新たな問いについて考える 新たな問い「どうして手紙が届いていないのに、二人ともとても幸せなのか」（本時）
3	11	・ 「がまくんとかえるくんシリーズ」の他の作品を読み、二人の友情について紹介する文章を書く
	12	・ 紹介する文章を読み合い、学習のまとめをする

## 本時の目標

創作した会話文をもとに手紙を待つ四日間の様子を想像し、手紙が届いていないにもかかわらず、二人が幸せな気持ちになった理由について話し合うことができる。 「思考力・判断力・表現力等」

### 「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

本単元では、物語の中の「問い」について考えた後、四日間の〈空所〉を創作することで個人の読みを表出し、新たな「問い」につながるように単元を構想した。そこで生まれる一人一人の読みのずれや違いが友達と話し合いたい話題となり、対話を通して読みを深めていくことができる。【授業構想力】

本時では、前時に創作した会話文をもとに、がまくんとかえるくんが幸せになった理由について考える。授業者は児童が創作した作品を前もって把握しておくことで、児童の思考を深めていく作品を取り上げる。例えば、相違点のある二者の作品を比較したり、特徴的な会話文を書いている作品を取り上げたりすることで本時の目標に迫れるようにする。その際、「どうしてがまくんだけではなく、かえるく

んも幸せなのか。」「かえるくんはかたつむりくんに手紙を頼まない方がよかったのか。」という揺さぶりをかけるなど、登場人物の二人にとって手紙を待つ四日間が大切な時間であったことに気付くような対話を仕組み、児童が自己の読みの変容を自覚できるようにしたい。 【授業実践力】

### 学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
1. 前時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四日間の二人の会話を考えた。</li> <li>・ 友達はどうな会話を考えたのかな。</li> </ul> 2. 創作した会話文を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お手紙を書いてくれてありがとう。</li> <li>・ 早く手紙が届いてほしいな。</li> <li>・ 一緒に待っていてうれしい。</li> <li>・ かたつむりくん、遅すぎるよ。</li> </ul> 3. 本時の課題を確認する。	○音読をした後、お手紙を待つがまくんとかえるくんの挿絵を提示し、二人がお手紙を待っている様子を想起できるようにする。  ○児童の作品を比較したり、特徴的な捉え方をしている会話文を提示したりして気付きを促す。 ○手紙を待っていた二人が、手紙が届いていないのにどうして幸せな気持ちになったのかという新たな問いを引き出す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             どうして手紙がとどいていないのに二人ともしあわせな気持ちになったのか話し合おう           </div>	
4. どうして手紙が届いていないのに二人とも幸せな気持ちになったのか、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手紙が届いていないのにどうしてだろう。</li> <li>・ 二人だったからじゃないかな。</li> <li>・ 自分を大切に思ってくれる人がいるから。</li> </ul> 5. 二人にとって手紙を待つ時間がどんな時間だったのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幸せな時間。親友と一緒にだから。</li> <li>・ ずっと続いてほしい時間だった。</li> </ul> 6. 学習を振り返り、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がまくんとかえるくんは親友だから幸せ。</li> <li>・ 手紙よりも、友達がいることが幸せ。</li> <li>・ かえるくんも幸せになったことに気付いた。</li> </ul>	○自分の考えをノートに書き、ペアで対話することで読みを交流する。 ○「二人とも」という叙述に注目し、がまくんだけではなく、かえるくんも幸せになったことに気付くようにする。 ◆創作した会話や叙述をもとに、がまくんやかえるくんが幸せな理由を想像している。【思・判・表】  ○もしも手紙が早く届いていたらを想像することで、四日間が創り出す幸せな気持ちに気付くようにする。  ○二人の関係を「親友」「友達」という言葉でまとめ、次時では別の作品を読んで二人の仲のよさを見つけていくことを伝える。

#### 【引用・参考文献】

白坂洋一編著・香月正登・大澤八千枝(2018)『「子どもの論理」で作る国語の授業-読むこと-』  
 田中実・難波博孝・須貝千里編著(2018)『第三項理論が拓く 文学研究/文学教育』明治図書。  
 松本修・西田太郎編著・玉川国語教育研究会 (2018)『その問いは、物語の授業をデザインする』学校図書。  
 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領 国語編』。